

# アスモ・たんぽぽ新聞

平成22年4月発行

第55号 *Spring*

アスモ新聞はアスモのホームページ <http://www.asumo-kaigo.jp/> からもご覧になれます。  
上記のアドレスが【在宅介護センター・アスモ】で検索してください。

〒165-0026  
中野区新井1-26-4  
オスカーマンション2F

「人に喜ばれる仕事を！！」のアスモは、みなさまとの新たな出会いをお待ちしております。

☎ 03-5318-4007



代表取締役 花堂浩一

## 真のヒーロー

アメリカのある地方に、野球観戦の大好きな、でも、目の見えない少年がいました。少年は大リーグ屈指のスラッガーである、〇〇選手にあこがれていました。

ある日、少年は、その選手へファンレターを送ろうと思い、母親に、自分の言いたいことを伝えて、手紙を書いてもらいました。「ぼくは、目がみえません。でも、まいにちまいにち、あなたのホームランをたのしみをしています。しゅじゅつをすれば、目がみえるようになるのですが、こわくてたまりません。あなたのようになりたいところがほしいです。ぼくのヒーローへ。」少年のことがマスコミの目にとまり、二人の対面が実現することになりました。

カメラのフラッシュの中、ヒーローと少年はこう約束します。今度の試合で僕は君のためにホームランを打つよ。少年もヒーローがホームランを打つことを約束することで、勇気をもって手術に臨む、と……

そして、運命の試合の日、ヒーローは1打席目も、2、3打席目もホームランを打つことが出来ませんでした。迎える最後の打席。2ストライク3ボールと、追い込まれたヒーロー。全米では、この少年とヒーローの約束を、テレビや新聞で見た多くのファンが、スタジアムで固唾をのんで見守り、また少年自身も、テレビの中継を祈る思いで聞いています。ピッチャーが投げた最後のボールは……

大きな空振りとともに、キャッチャーミットに突き刺さりました。全米から大きなためいきが漏れようとしたその時、スタジアムの実況が、こう伝えました。



「ホームラン！ 月にまで届きそうな、大きな大きなホームランです！」



私も、王・長島にあこがれ、夢を抱いて野球に明け暮れる少年時代を過ごしました。この話でも少年の心を潰すことなく、実況をした解説者も素晴らしいと思います。そのことを許すことができる社会の度量というものを習うべきなのかもしれません。

私たちは子どものころから、「うそつきは泥棒の始まり」などとうそをつくことを厳しく戒められてきました。その一方で、うそも方便などと肯定するような仏教的な教えもあります。うそが肯定されるのは、このホームランの話からもわかるように、そのことによつて誰かが、不利益を被ったり不幸になったりすることがないからだと思います。自分を守るためや人を陥れるためのうそは絶対にいけないものです。かつて松下幸之助がよく言われていた「三方よし」という発想で課題を解決していくことが大切ではないでしょうか？

経済が成長し、社会は成熟したといわれていますが、大切なことは心の成熟なのだと言いたいと思います。



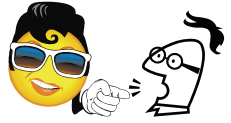


春

春はゆっくりやってくる  
 春はやっぱりお花見  
 それに卒業や入学もある  
 入学は出会いのとき  
 一年生は新しい第一歩  
 卒業は別れのとき  
 それは社会人への旅立ち  
 桜が満開  
 その下で記念写真をとる  
 春はあたたかく  
 こころ和む季節  
 虫たちもでてくる



① ある日のこと、花堂社長が他の人の机で打合せをしていました。「おはようございま〜す!」と、事務所の入り口を見ると頭にはスカーフ、顔にはサングラス。「びっくりした〜、どこのセレブ女性が来たかと思った…」本気で驚いていました。さて誰?



② サービス提供責任者が真剣に打合せをしています。しかし、手元のパソコンには《ハラミ&牛たん》という文字と美味しそうな焼肉が画面一杯に広がっていました。食べたかったのかな? 最近、ダイエットしてスリムになってきています。誰かな〜?



③ いつも穏やか、笑顔が素敵。なぜか女の子に間違われる? 何気にお洒落です。靴とか見てみて〜(^\_-)☆ この人誰?



④ いつも髪を束ねているゴムが3色。レインボーヘッド。見た目より以外にドジな人。天然ドジです。誰かな?



⑤ 皿をするときのクセで、「どうも、すいません」何も悪いことしていないのになんで謝ってるのかしら? 自分の事より人の心配ばかり...誰?



武藤真由美様  
 素敵なお詩をありがとうございました



今回はアスモスタッフの紹介も兼ねてのクイズです。皆さんの知らない姿もあったのでは? みんな、とても明るく楽しく素敵なおメンバーです。これからも宜しくお願いしま〜す m( )m

この人はだ〜れ? クイズのこたえ

- ① 畠山妙子 ② 渡辺真佐子 ③ 盛田晴也 ④ 千田敦子 ⑤ 花堂浩一



ケンコー先生の「ここから健康になりましょう」

みなさんは歩くときにサルのようになっていませんか?  
 サルは足の内側の指が弱いために外側の足指に負担をかけた歩き方をします。人間でも高齢になると同様な傾向があるようです。がに股で足の外側で歩くことが続くと腰への負担が増えてきますし、膝の内側にも負担がかかり痛みを誘発することもあります。足の外側で歩くようになるのは、靴生活が招いた弊害です。靴をはくと足を常に締め付けた状態になるため、足の内側の筋力が低下し偏平足や外反母趾や巻き爪を引き起こします。そうなると正しい歩行が出来ず、歩行時に痛みが出てしまいます。  
**歩行で大事なことは親指と第2指で体重を支えながら歩くことです。**  
 昔の日本人は鼻緒のついた下駄や草履を常用していたために、身体の重みを親指と第2指の中間で支えることができました。鼻緒のついた履物が履けたらいいのですが、無理な場合は靴でも親指と第2指の間に布をはさみ鼻緒の代用を試みるのもいいでしょう。  
 5本指にわかれていた靴下もおススメです。  
 文明が発達する一方で、足のほうがどんどん退化している現代社会は嫌ですね。  
 地に足をつけて一歩踏み出すということは本当に大事なことなんだと僕はつくづく思います。



ここから整骨院  
 〒165-0034 東京都中野区大和町1-65-4 増田ビル1F JR 高円寺駅北口徒歩5分  
 TEL&FAX 03-5364-9090

